

最新の乳がん治療

乳がんの治療の新たな取り組みとして、本院の食道・乳腺甲状腺外科で取り扱っている先進医療「術後のホルモン療法およびS-1内服投与の併用療法」を紹介します。

● 治療方法

原発性乳がん(女性ホルモンの一種であるエストロゲンの受容体が陽性であり、細胞の増殖にかかわる遺伝子タンパクであるHER2が陰性の方)で、かつ比較的再発リスクの高い方を対象に、手術後に標準治療である「1.ホルモン療法を行うグループ」と「2.ホルモン療法に飲み薬の抗癌剤であるS-1を加えるグループ」に分けて治療を行います。

ホルモン剤だけを内服する場合に比べて、ホルモン剤とS-1を同時に内服することでがんの再発を抑える割合が向上するか、安全に服用できるかを確かめることを目的としています。どちらの治療を受けるかは、ご自身や担当医が決めるのではなく、定められたルールに従います。



1 ● ホルモン剤による治療

標準治療で用いられるホルモン剤を5年間服用します。どのホルモン剤を服用するかについては、担当医との相談によって決めます。また、治療期間中にホルモン剤の変更も可能ですが、合計で5年間継続します。

2 ● ホルモン剤とS-1による治療

ホルモン剤による治療に加え、最初の1年間、S-1を服用します。S-1は、朝・夕食後の1日2回、14日間服用し、その後7日間休みます。これを1コースとして繰り返し、1年間内服することになります。S-1を1年間服用した後も、引き続きホルモン剤を服用し、ホルモン剤の服用期間が合計5年間となるまで継続します。



高い抑制効果が期待される抗がん剤S-1を併用した治療法
2グループに分けて効果を検証

● ホルモン剤とS-1の併用により期待される効果

ホルモン受容体陽性の患者さんには通常、ホルモン剤による治療が標準治療となっていますが、S-1と同じ系統の抗がん剤であるUFTはホルモン剤の一つであるTAMとの併用で乳がんの再発を有意に抑制したとの報告があります。S-1は乳がんの進行を抑えたり、がんを縮小させたりする効果が、UFTよりも高い可能性が示唆されています。

さらに、胃がんの手術後にS-1を服用した患者さんは、服用しなかった患者さんと比較して生存期間が有意に延長したという結果が報告されています。

以上のことから、S-1は乳がんにおいて、標準治療のホルモン剤と併用することで、身体どこかにひそんでいるがん細胞に作用し、がんの再発を抑えることが期待できます。

患者の皆様へ
この治療には適格基準がございます。
詳しくは担当医にご相談ください。



説明は、
徳島大学病院
食道・乳腺甲状腺外科長
丹黒 章(たんごくあきら)教授
Tel.088-633-7136

S-1の服薬スケジュール

